

一人一改善運動によるアイデア募集結果について

1 趣旨

経営健全化を図るためには、各県立病院の第一線で勤務する医療スタッフの力が最も重要であり、そのためには、職員一人ひとりが、自分の課題として、主体的に経営健全化に取り組むことが必要である。

そのためには、医療スタッフをはじめとする職員と、県立病院の経営状況等関係情報を共有するとともに、その意見に耳を傾けながら経営健全化を図らなければならないが、その一つの方策として、県立病院事業に関しての効率化やサービス向上策について職員から「一人一改善」を募るなど、病院局職員一丸となって、より一層経営参画意識の醸成に取り組みながら、高度で良質な医療の提供に努めている。

2 一人一改善運動

経営改革に向けた職員の自発的な取組みを促すために、病院局職員全員に、「こんなことをしたら経営健全化に資するのでは」「日ごろの業務遂行においてこんな無駄があるのでは」といったアイデアや事例を募集し、病院局全体で検討、取組を行うもの。

3 募集期間

平成20年7月2日（水）～8月15日（木）

4 応募状況

応募総数 103件

（内訳）

- ・経営改善に関するもの 55件
- ・業務改善に関するもの 34件
- ・意識向上その他 14件

5 今後の対応

応募された提案を、経営管理課及び各病院において、実施できないか、という観点から検討中。

すぐに取り組めるものについては順次実施。

◎すでに実行している例

- 1 今回、各病院の職員から直接経営管理課に提案する方法をとったこともあり、個人や各病院ですぐに取り組めるものも多く寄せられ、ただちに実行している。

※「22条職員による県庁、経営管理課への文書送達廃止」

宮崎病院では、従来、22条職員が直接県庁や経営管理課に文書を持参していたが、経営管理課職員が宮崎病院へ別の公務で行くことも多いことから、職員が持参することとした。

また、日南病院からの「職員宅配便」という提案については、職員が通勤時に県庁を経由することについての整理は付いていないが、経営管理課職員、病院職員とも、出張時には可能な限り文書を持参するよう取り組んでいる。

※「院内標語の募集」

医療現場は、非常に高度な技術を駆使するが、基本は一つ一つの作業を確実に実施していくとにあり、交通機関の運行現場や工場の作業現場と同様に標語プラス実践を図る意味で、医療安全、経費節減、法令遵守等に資する標語を募集するもの。

提案のあった宮崎病院において、既に実施されている。

※節電、節水による経費節減、ゴミの分別による環境への配慮など。

→ それぞれ取り組んでもらうよう、各病院で周知を行った。

- 2 一人一改善での提案があったもので、提案とは別にすでに経営管理課で検討しており対応したものがあつた。

※医療秘書の導入について

医師の事務作業を補助する医療秘書について、経営管理課内での検討の結果、一人一改善の提案内容とは若干異なるが、宮崎、延岡、日南の3県立病院で導入する予定。

3 各病院ですでに改善に取り組み、一人一改善として提案しているものもあった。

※「SSI（手術部位感染）を減らす」（ゼロにする）

手術時に手術の痕がきれいな、真皮縫合という方法を用いることで、手術部位感染を完全にゼロとすることにも資する。

この取組みを宮崎病院の心臓血管外科では実施している。

※「手術時手指消毒法の変更」

延岡病院では、手術室における手指の消毒方法を、変更できない場合を除いて、ウォーターレス法に変更し、消毒時間を500時間短縮し、経費を153万円節減した。

1 経営改善

番号	提案件名	提案概要	効果等
1	支払の利便性向上	診察料や入院料等をコンビニエンスストアでも支払いできるようにするとともに、デビットカードの導入を行う。	支払の利便性の向上 未収金削減
2	未収金の債権回収事業者への委託	未収金改修の難しい事案については、民間の債権回収業者や弁護士等への委託により対応する。	未収金削減
3	医療機器購入予算の配分方法の検討	医療機器購入予算を各病院の医療機器の資産価値に応じた予算枠とする。	医師のモチベーションの向上
4	職員宅配便	各病院から県庁各課への郵便物を、病院から自宅までの間に県庁がある職員が、通勤途中に県庁へ届ける。	経費節減 (郵送量削減)
5	転勤廃止	職員の転勤を廃止し、赴任旅費や通勤手当の削減を図る。	経費節減
6	治験費及び市販後調査協力費等の実施者へのインセンティブ	医師の大きな労力が必要である治験や市販後調査協力が積極的に行えるようインセンティブを設ける。	増収効果
7	領収証・封筒などへの企業広告の掲載	領収証や封筒への企業広告の掲載やエレベータ内の壁面広告等の実施により広告収入を得る。	増収効果
8	手術機械や器具の有効活用	3県立病院間で手術機械・器具のリストを作成し、有効活用を図る。	経費節減
9	遊休物品(医療機器等)の活用	不要物品(医療機械等)を他部署で活用できるシステムを構築する。	経費節減
10	薬剤の県立病院間での譲渡譲受システムの構築	卸から購入する薬剤は包装単位が大きいため、病院間で譲渡譲受できるシステムを構築し、期限切れによる廃棄を減らす。	経費節減
11	廃棄する物品の現金化	富養園の閉園に伴う廃棄物をオークションにかけるなど現金化する。	収益増 経費節減(廃棄物処理費用節減)
12	病院敷地内全面禁煙	宮崎病院は現在、管内禁煙であるが、敷地内全面禁煙を実施する。	健康増進 収益増
13	医事課職員の手術室専任配置	診療報酬請求業務を行う医事課職員を手術室に専任配置し、請求漏れ防止を図る。	収益増 医師・看護師の業務軽減
14	薬剤管理指導の高度化	薬剤管理指導料の改正を踏まえ、より高度な薬剤管理指導を行う。	収益増 患者本位の医療の提供
15	宮崎病院一県庁間の郵便の職員配布	宮崎病院の22条職員が定期的に届けていた郵便物を、別用務で出張する職員に持参させる。	業務改善 経費節減
16	放射線治療における皮膚マーキング保護シール材の変更	放射線治療における皮膚マーキング保護シール材の変更の検討を行う。	経費節減
17	委託業務の見直し	委託業務のうち専門性の低い業務を職員で対応すること等により縮小化を図り、委託費の節減を行う。	経費節減
18	ベッドセンター業務と寝具配送及び回収業務一本化	ベッドセンター教務と寝具搬送及び回収業務は関連性がある業務であり、一本化を図る。	経費節減
19	インクタンクのリサイクル	小型プリンターのインクタンクを回収し、リサイクルを図る。	経費節減

番号	提案件名	提案概要	効果等
20	賞味期限の確認	食材の賞味期限の確認を更に徹底し、更に無駄なく食材を使用するとともに、効率的な食材発注を行う。	経費節減
21	職員による執務室の清掃	委託により対応している執務室の清掃を職員自らが実施する。	経費節減 業務の効率化
22	執務室の清掃時間の変更	現在、朝始業前に実施している執務室の清掃を前日の勤務時間終了時に行う。	業務の効率化
23	ペーパータオルの節約	手洗い後のペーパータオルは、1枚で拭ききるよう努力する。	経費節減
24	胎児心拍モニタリング用紙の継続記録廃止	日南病院で実施している胎児心拍モニタリングのプリントアウトを廃止し、データをHDDに保存する。	経費節減
25	銀廃液を含む現像液の廃棄物処理料の削減	他の廃液と一緒に廃棄している銀廃液を含む現像液は銀を取り出してリサイクルできることから、別契約により対応し、廃棄料の削減を図る。	経費節減
26	手術室手指消毒法の変更	手術室における手指消毒法をガイドラインに従い変更し、経費節減が図れたので、更に継続していく。	経費節減
27	胎児心拍モニタリングの電子カルテ連動導入の中止	胎児心拍モニタリングを電子カルテと連動させる要望があるが、費用節減の観点から中止する。	経費節減
28	院内感染委員会等による抗生剤の使用量随時確認	抗生剤の使用状況を随時把握し、抗生剤を必要以上に使用しないようにする。	経費節減
29	紙の裏面使用	紙の裏面使用の徹底を図る。	経費節減
30 31	洗剤の効率的な使用	洗剤の効率的な使用に努めるとともに、節水を心がける。	経費節減
32 ～ 55	節電・節水	調理時に限らずこまめに節水を行うとともに、使わない電気を消すなどこまめな節電に取り組む。	経費節減

2 業務改善

番号	提案件名	提案概要	効果等
1	薬剤業務の連携	薬剤業務の他部署、県立病院間での連携を図るための選任薬剤師の配置を検討する。	業務改善
2	医療秘書の導入	医師業務の負担軽減のため、医療秘書を導入する。	業務改善
3	薬剤業務へのマトリクス型組織の導入の検討	組織の中で一人の職員が複数の職を担うマトリクス型組織の導入を薬剤業務について検討する。	業務改善
4	薬剤師の病棟専従者の配置	1病棟に1名の薬剤師を専任配置の試行を行い、メリット・デメリットを検証する。	業務改善
5	診療マスタの薬品名変更時の作業軽減	現在、各県立病院ごとに行っている医薬品販売名の変更に伴う診療マスタの修正を集約化する。	業務改善
6	薬価改定に伴う薬剤の減価償却システムの再検討	薬価改定に伴う薬剤の減価償却システムを実態に見合うよう再検討し、適正な財産管理を行う。	業務改善
7	薬剤発注管理や在庫管理等専任の補助員配置	薬剤部において薬剤発注管理や在庫管理等を薬剤師以外の補助員を配置し、薬剤師の本来業務の効率化を図る。	業務改善
8	「用法が同じなら、同一Rpに」	薬剤で服用方法が同じであれば可能な限り同じ薬袋にまとめるよう改善する。	患者サービス 経費節減
9	委託職員や臨時職員等からの業務改善の提案受付	委託職員や臨時職員等からの業務改善の提案も受け付け、病院全員で業務改善を図る。	業務改善

番号	提案件名	提案概要	効果等
10	調剤システムの統一	各県立病院ごととなっている調剤システムの統一化を図る。の	業務改善
11	薬剤の在庫管理の徹底	注射薬剤等の返品時等における在庫管理を徹底できるシステムづくりを検討する。	業務改善 経費節減
12	薬剤師から医師への情報提供システム	電子カルテ上、薬剤師から医師への情報提供がスムーズに行えるシステムを検討する。	業務改善
13	ヘルプデスクの設置	病院内での様々なトラブルに対処するため警察OB職員等によるヘルプデスクを設置する。	業務改善
14	SSI(手術部位感染)の防止	SSIを防止するため、手術時における閉胸・閉腹の際に吸収糸を使用する。	業務改善
15	時間励行	調理時間や配膳時間など決められた時間をきちんと守る。	業務改善
16	こまめな消毒	給食食材等にこまめな消毒を行い、細菌の繁殖を防止する。	衛生管理の徹底
17	異物混入防止対策	患者給食への異物混入防止対策として紙類などの使用を極力減らす。	衛生管理の徹底
18	ドアの開閉の徹底	調理室等のドアの開け閉めをしっかりとし、虫や埃などが入らないようにする。	衛生管理の徹底
19	物品納入の際の梱包材の業者引き取り	物品納入の際、段ボールのまま納入するのではなく、可能な限り商品だけの納入とし、段ボールは業者に引き取ってもらう。	環境への配慮
20	環境に優しい洗剤の使用	現在使用している洗剤を環境に優しい洗剤(EM石けん等)に変更する。	環境への配慮
21	患者及び家族へのサービスの充実	付き添いの方専用の更衣・シャワー室の設置、外来待ち患者のための部屋の提供、売店の品揃えの充実等を図る。	患者サービス
22	小児科外来の受診環境改善	日南病院の小児科外来待合いにおける空調温度差を改善する。	患者サービス
23	入院時受付窓口での薬剤師による「持参薬」の確認	患者の入院時に薬剤師が「持参薬」の確認により、入院時の服薬指導を行い、患者サービスの充実に努める。	患者サービス
24	薬剤の一包化	患者本位の薬剤の自己管理等を容易にするため、薬剤の一包化を検討する。	患者サービス
25	会議・打合せ等の効率化	栄養管理部門における献立検討会等の効率的実施を検討する。	業務改善
26	手術室看護師の病棟応援基準の作成	手術室看護師が病棟への応援が行える人員を確保できるよう基準を作成する。	業務改善
27	日勤開始時の点滴ミキシング時間変更への取り組み	日勤業務の見直しを行い、病棟での点滴ミキシングの時間を変更したところ、様々な波及効果が得られたので、今後とも継続する。	業務改善
28	清掃の徹底	職員がそれぞれ気がついたゴミを拾うよう心がける	院内環境の改善
29	もう1箇所の掃除	掃除、片付け等をした後に、目についたもう一箇所を掃除し、職場の美化に心がける	院内環境の改善
30 31	ゴミの分別の徹底	ゴミの分別の徹底により、資源のリサイクルを図るとともに、ゴミの減量化を図る。	院内環境の改善
32	高額医療機器の使用効率の改善	高額医療機器の使用効率を増やすことにより、収益を上げるとともに、治療の幅を広げる工夫を行う。	診療体制の充実
33	薬剤部における学生実習及び新人実習等の教育のあり方の検討	1年数ヶ月後に始まる6年制薬学部学生の長期研修に備えるため、学生実習及び新人実習等の教育のあり方を検討する。	業務改善

番号	提案件名	提案概要	効果等
34	薬剤部内でのインシデントの未然防止	薬剤部内で発見されたミスを全て記録し、分析、対策の検討を行い、事故を未然に防止する。	業務改善

3 意識向上・その他

番号	提案件名	提案概要	効果等
1	看護部長の副院長任命	看護師の代表である看護部長が経営に関わる立場に立つことで、患者が求めていることを経営に反映させる。	看護師の士気高揚
2	「事件は県庁ではなく病院でおこる」	病院運営を行うには病院現場を十分知る必要があることから、経営管理課事務職員を病院現場に派遣する。	病院運営の効率化
3	今月のキラッとさん・病院局長表彰	各県立病院で頑張っている職員や最も輝いている職員を毎月病院局長が表彰する。	職員の士気高揚
4	メルマガ「こちら病院局経営管理課です」の発行	病院経営情報の共有化、経営参画意識の醸成を図るため、メールマガジンを発行する。	職員の意識改革
5	病院局長の各病院訪問「社長支店めぐり」	病院局長が毎月各病院を訪問し、病院の現状を把握するとともに意見交換等を行う。	職員の意識改革
6	研修医の確保実績に基づく学術交流経費の創設	研修医の確保のために、研修医が年に1回1週間程度海外での学会等への参加が出来るシステムを創設する。	医師のモチベーションの向上
7	こころの医療センター(仮称)の名称決定	こころの医療センター(仮称)の正式名称を早急に決定し、広く県民に周知する。	病院の役割の明確化
8	経営管理システムの更なる活用	経営状況についての認識を共有化するため経営管理システムを広く活用できるよう工夫する。	経営意識の醸成
9	看護部ホームページの充実	病院局ホームページ内の看護部に係る部分を充実し、看護部の姿勢をアピールする。	看護部のイメージアップ リクルート情報の提供
10	専門医取得のための費用の負担	専門医を取得する者の学会参加費用や登録料を負担する。	専門医取得者、研修医の増加
11	院内標語の募集	医療安全、法令遵守、経営改善などに係る標語を院内で募集して掲示する。	目標の共有
12	地下ゴミ集積場の環境改善	地下ゴミ集積場の環境改善を行い、より機能的で安全な廃棄物処理環境を整備する。	適正な廃棄物処理
13 14	あいさつ運動	患者、家族、業者、職員などによるあいさつ奨励	チーム医療の推進 快適な療養環境の提供